



## 説教要旨 「神にはできる」

ルカによる福音書18章18～30節

ある議員が「善い先生、何をすれば永遠の命を受け継ぐことが出来るでしょうか」(18節)とイエス様に尋ねました。この議員は「善い先生」から永遠の命を受け継ぐ道を教えてもらってそれを実践し、永遠の命に至ろうと考えているのです。それは結局、自分の働きによって、努力によって救いに到達しようとする思いです。イエス様はこの議員「持っている物をすべて売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい」(22節)と言われますが、それができない議員は「非常に悲しんだ」(23節)のです。

イエス様は、富める者が神の国に入ることの難しさを、「らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」(25節)とたとえられました。そして「それでは、だれが救われるのだろうか」と驚きの声を上げる人々に、それが人間には出来ないことであると認めつつ、「神にはできる」(27節)と告げたのです。しかし「人間には出来ない」といってるそばから弟子のペトロは「このとおり、わたしたちは自分の物を捨ててあなたに従って参りました」(28節)と言うのです。イエス様の言葉を表面的にしか理解せず、結局、自分の力で、決断で、救いを得たと得意げになっているのです。そんな弟子たちにイエス様告げました。「はっきり言うておく。神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子供を捨てた者はだれでも、この世ではその何倍もの報いを受け、後の世では永遠の命を受ける。」(29-30節)

自分には何もないことを受け入れるために、家、妻、兄弟、両親、子どもを自分のものとしなさい。イエス様はそう言う姿を私たちに示しておられます。それはなにも家族など必要無いなどという事ではなくて、家、妻、兄弟、両親、子ども、それらすべてが自分の支配下ではなく、神様の支配下にあることを受け入れることです。それこそが神の国、神の支配を受け入れることなのです。たとえ何も持たなくとも、神が共にいます。このことにこそ、何物にも代えがたい大きな報いがあるのです。